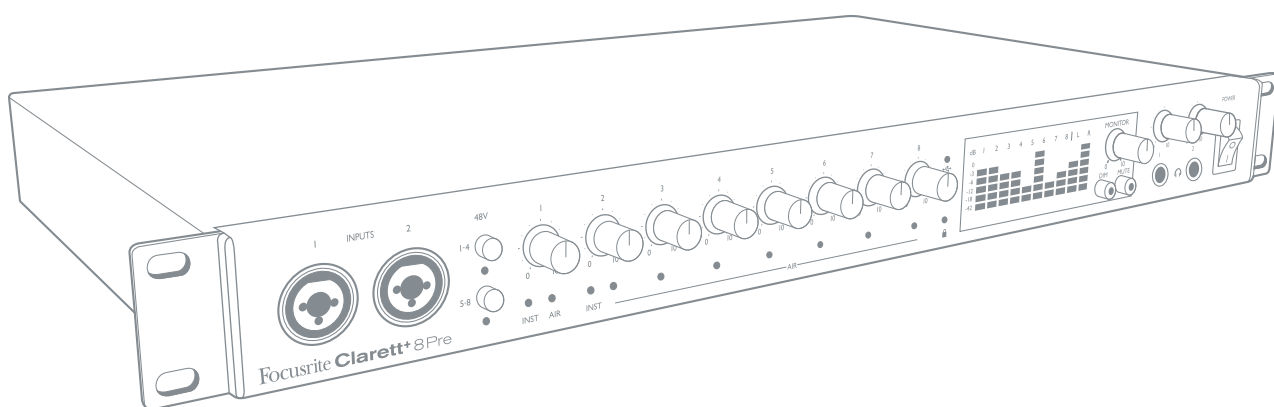


Clarett+ 8 Pre

ユーザーガイド



目次

概要	3
はじめに.....	3
特徴.....	4
同梱物.....	5
システム要件.....	5
使用を開始する	6
ソフトウェアのインストール.....	6
Clarett+ 8Preの製品登録.....	6
各部の名称と特徴.....	8
フロントパネル.....	8
リアパネル.....	10
Clarett+ 8Preを接続する.....	11
コンピュータのオーディオセットアップ.....	11
DAWでのオーディオセットアップ.....	11
Clarett+ 8Preをスピーカーに接続する.....	12
サラウンドサウンドシステムの使用.....	14
使用例	16
1. バンドのレコーディング.....	16
2. オプティカル接続の使用.....	18
3. Clarett+ 8Preをスタンドアロンのミキサーとして使用する.....	19
4. レコーディング中にフォールドバックを行う.....	20
FOCUSRITE CONTROL - 概要	21
CLARETT+ 8PRE技術仕様	22
性能仕様.....	22
物理的特性と電気的特性.....	23
トラブルシューティング	25
著作権表示と法定通知	25

概要

警告:イヤホンやヘッドホンからの音圧レベルが高すぎると、聴力障害を引き起こす恐れがあります。

警告:本機は、USB 2.0以上、もしくはThunderbolt 3.0以上のポートにのみ接続可能です。

はじめに

Clarett+ 8Preをご購入いただき誠にありがとうございます。本機は、WindowsおよびPC対応の高品質オーディオインターフェースで、スタジオ環境において重要な役割を果たします。8つの次世代Clarett+マイクプリアンプが搭載され、高ヘッドルーム、低ノイズ、低ディストーションを実現し、Focusrite独自のアナログモデリング機能Airモードが驚くほどクリアな録音を可能にします。独立型のA-DおよびD-Aコンバーターはダイナミックレンジが向上され、音楽をこれまで以上に身近なものにします。

本ユーザーガイドでは、本製品の操作上の機能を十分理解していただくために、本体について詳しく説明しています。Clarett+ 8Preが持つ全ての機能を理解するため、本ガイドを最後までよくお読みいただくことを推奨します。

重要:本ユーザーガイドに加え、**Focusrite Control**ソフトウェアガイドもお読みいただくことをお勧めします。ソフトウェアガイドは、focusrite.com/downloadsよりダウンロードが可能です。

Focusrite Clarett+シリーズと併用するために開発されたソフトウェアアプリケーション Focusrite Controlに関する全ての詳細が記載されています。

これらのユーザーガイドから必要な情報が得られなかった場合は、次のURLをご参照ください：

support.focusrite.com本ガイドに記載されていない情報やチュートリアルが紹介されています。また「Getting Started」ビデオチュートリアルは次のURLより視聴できます。

focusrite.com/get-started/ClarettPlus-8Pre

特徴

Clarett+ 8Preは、次世代の高性能Clarett+プリアンプを8基備えています。十分に余裕のあるヘッドルーム、低ディストーション、低ノイズのプリアンプは、クリアでパワフルなサウンドをキャプチャーします。さらに進化した高性能なA-DおよびD-Aコンバーターにより、原音のアナログ感を失わずに超低ノイズかつ高ダイナミックレンジを実現します。

Focusrite ISA 110プリアンプをエミュレートしたフルアナログ回路によるAirモードで、ボーカルを際立たせます。ギターアンプの入力を再現した超高インピーダンスのJ-FETインストゥルメント入力は、オーディオ帯域が極めて広くギター本来のトーンをそのままキャプチャーします。

付属のソフトウェア**Focusrite Control**を使うことで、一般的なレコーディングに適したルーティングを簡単に設定できます。また複雑なセットアップにも対応しており、詳細なルーティングおよびモニタリング構成、サンプルレートや同期などのハードウェア設定を行うことができます。**Focusrite Control**は、以下のURLからダウンロードできます：focusrite.com/downloads

iPad および iPhone のユーザーの方は、[Focusrite iOS Control](https://focusrite.com/downloads)をApp Store®よりダウンロードできます。コンピュータ上で実行されている**Focusrite Control**とWiFi経由で通信することで、iOSデバイスからモニターミックスを調整できるアプリです。詳細は、**Focusrite Control**ユーザーマニュアルをご参照ください。

同梱物

Clarett+ 8Preには以下が付属します：

- IEC コネクタ付属 AC 電源ケーブル
- USB-C to USB-A ケーブル
- USB-C to USB-C ケーブル

Focusrite Controlは、focusrite.com/downloads よりダウンロードできます。Windowsで**Focusrite Control**を使用する場合は、ドライバーのインストールも必要です。Macの場合は、Clarett+ 8Preがクラスコンプライアント機器として動作するため、ドライバーのインストールは不要です。

Clarett+シリーズには、サードパーティー製ソフトウェアが付属します。
詳細については、focusrite.com/included_software/ClarettPlus-8Pre で確認できます。

システム要件

重要 – Clarett+シリーズに対応するコンピュータおよびオペレーティングシステムに関する最新情報は、以下のリンクをご参照ください。
support.focusrite.com

使用を開始する

ソフトウェアのインストール

Clarett+ 8Preの動作に必要な**Focusrite Control**およびドライバーソフトウェアは、Focusriteのウェブサイトよりダウンロードできます：focusrite.com/downloads

Downloadsページの機種選択メニューにあるClarett+シリーズからお使いの機種を選択すると、対応するダウンロード可能なすべてのファイルが表示されます。



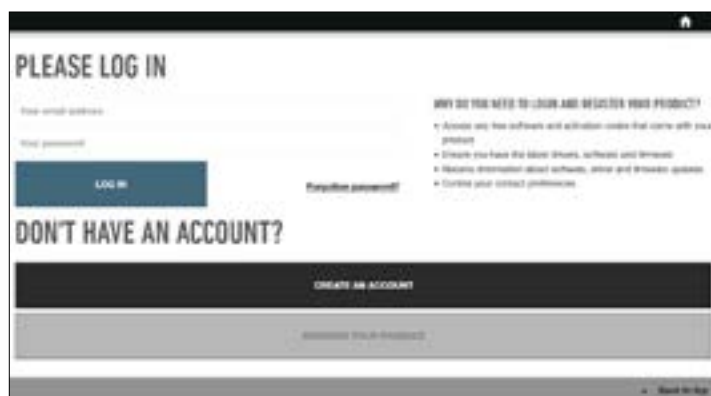
お使いの環境に対応する**Focusrite Control** をダウンロードするには、該当するDownloadボタンをクリックします。

Windowsドライバーは、**Focusrite Control**のダウンロードファイルに含まれています。Macでお使いの場合は、ドライバーのインストールは不要です。

Clarett+ 8Preの製品登録

以下の手順で不明な点がある場合は、こちらの動画ガイドをご覧ください。
focusrite.com/get-started/ClarettPlus-8Pre.

1. focusrite.com/register/にアクセスします。



2. Focusrite/Novationアカウントをお持ちでない場合は、**CREATE AN ACCOUNT**を選択し、画面の指示に従ってアカウントを作成します。

3. アカウントをお持ちの場合は、ログイン後、**REGISTER A NEW PRODUCT**を選択します。



4. **Product**ドロップダウンリストからお使いのClarett+製品を選択し、ページ下部に製品のシリアル番号を入力します。シリアル番号は、Clarett+ 8Pre本体の裏面、または製品の箱に記載されています。入力後、**Set Serial Number**をクリックします。

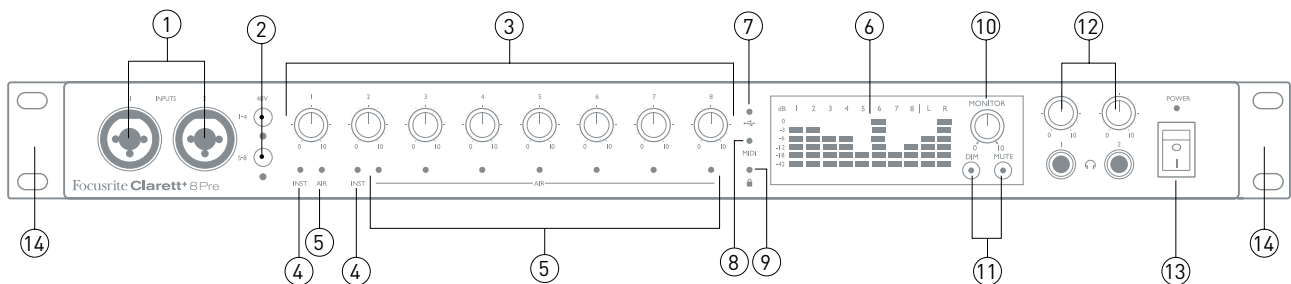
5. 画面の指示に従って製品の登録を完了してください。

6. 登録が完了すると、アカウント内の**My Hardware**タブに製品が表示されます。

7. 付属のソフトウェアは、**My Software**タブにて確認できます。

各部の名称と特徴


フロントパネル



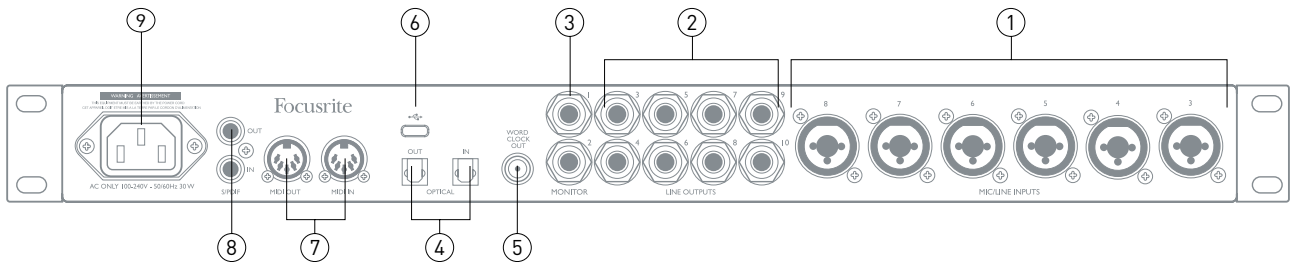
フロントパネルには、すべての入力ゲインとモニタリングコントロールに加えてマイク、ラインおよびインストゥルメント用の2つの入力コネクタが備わっています。

- 1. INPUT 1 & 2** – コンボ XLR 入力ソケット - 必要に応じて XLR または1/4インチジャックでマイク、楽器（ギターなど）またはラインレベル信号を接続します。楽器またはラインレベル信号には、TRS（バランス）または TS（アンバランス）ジャックプラグのどちらか一方を使用することができます。
- 2. 48V** – マイク入力1~4および5~8のコンボコネクタにあるXLR接続部で、48Vファンタム電源を個別に有効にするスイッチ（入力3~8はリアパネル）。ファンタム電源がオンのとき、各スイッチの横にあるLEDが赤色に点灯します。ファンタム電源は、すべてのマイクに必須ではありません。お使いのマイクにファンタム電源が必要か不明な場合は、マイクの取扱説明書を必ずご確認ください。
- 3. ゲイン1~8** – 8つのロータリーコントロール：Input 1から8に適用される信号の入力ゲインを調整します。
- 4. INST** – **Focusrite Control**ソフトウェア上でInput 1および2にINSTが選択されている際に点灯する赤色のLED。INSTをオンにすると、ゲインレンジと入力インピーダンスが変更され（ライン入力に対し）、入力がアンバランス方式となり、2極（TS）ジャックプラグを使用して楽器を直接接続できるようになります。INSTをオフにすると、ラインレベル信号の接続が可能になり、3極（TRS）ジャックによるバランス入力、もしくは2極（TS）ジャックによるアンバランス入力のいずれかで対応することができます。
- 5. AIR** – **Focusrite Control**で各入力のAIR機能を有効にしたときに点灯する8つの黄色のLED。AIR機能は入力部の周波数特性を変更し、トランスフォーマーによる伝統的なFocusrite ISAマイクプリアンプのサウンドをエミュレートします。
- 6. メーター** – 6段階のLEDメーターで、a) 8つのアナログ入力信号レベル（メーター **1**~**8**）、b) **MONITOR 1**および**2**の出力信号レベル（メーター**L**および**R**）を示します。入力メーターは、入力ゲインステージの後の段階の信号レベルを示します。出力メーターは、モニターレベルコントロール[10]の前の段階の信号レベルを示すため、メータの表示は変わりません。LEDは、-42 dBFS（緑色、信号あり）、-18および-12 dBFS（緑色）、-6および-3 dBFS（黄色）、0 dBFS（赤色）で点灯します。0 dBFSレベルを超えるとデジタルクリッピングが生じるため、十分な注意が必要です。
- 7. USB** (有効) – 本体がホストコンピュータとの接続を認識すると、緑色のLEDが点灯します。
- 8. MIDI** – リアパネルのMIDI INポートにMIDIデータを受信している場合に緑色のLEDが点灯します。
- 9. ロック** – Clarett+ 8Preの内部クロックまたは外部デジタル入力信号でクロック同期が確立されると点灯する緑色のLED。
- 10. MONITOR** – メインモニター出力レベルコントロール – 通常はこのノブにて、リアパネルのメ

ンモニター出力のレベル調整を行います。また、**Focusrite Control**で設定することで、複数の出力ペアのレベルを調整することもできます。

11. **DIM**および**MUTE** – Clarett+ 8Preのモニター出力をコントロールする2つのスイッチ。**DIM**をオンにすると、出力レベルが18dB下がり、**MUTE**をオンにすると、出力がミュートされます。デフォルトでは、これらのスイッチはメインモニター出力1と2で作用しますが、**Focusrite Control**で、いずれかのアナログ出力で作用するように設定できます。**DIM**または**MUTE**をオンにするとスイッチが点灯し、ステータスを確認できます (**DIM**:黄色、**MUTE**:赤色)。
12.  (ヘッドフォン) **1**および**2** – 1つまたは2つのステレオヘッドフォンをそのコントロール部の下にある2つの1/4インチTRSジャックソケットに接続します。ヘッドフォン出力からは、常に**Focusrite Control**で行ったアナログ出力7/8および9/10 (ステレオペアとして) の信号が出力されます。
13. **POWER** – AC 電源スイッチおよびオンを示す LED。
14. 標準19インチのラックにClarett+ 8Preを取り付けるためのラックイヤー。

リアパネル



- 1. MIC/LINE INPUT 3~8** – コンボ XLR 入力ソケット - 必要に応じて XLR または 1/4 インチ ジャックで追加のマイクまたはラインレベル信号を接続します。ラインレベル信号には 1/4 インチ TRS (バランス) または TS (アンバランス) ジャックプラグを使用できます。
- 2. LINE OUTPUTS 3~10** – 1/4 インチ ジャックソケットの 8 つの バランス アナログ ライン 出力。バランス接続には TRS ジャックを、アンバランス接続には TS ジャックを使用します。これらの出力にルーティングされる信号は、**Focusrite Control** で設定でき、ミッドフィールドやニアフィールドなどのスピーカー、マルチチャンネルモニタリングシステム用の追加スピーカー、またはアウトボード FX プロセッサにオーディオを送る目的で使用されます。
- 3. MONITOR 1 および 2** – 1/4 インチ ジャックソケットの 2 つの バランス アナログ ライン 出力 (アンチ サンプ回路搭載)。バランス接続には TRS ジャックを、アンバランス接続には TS ジャックを使用します。これらの出力は LINE OUTPUT 1 および 2 でもあり、モニタリングシステムのメイン L/R スピーカーを駆動させます。出力部への信号のルーティングは、**Focusrite Control** でカスタマイズが可能です。
- 4. OPTICAL IN および OUT** – ADAT フォーマットで、サンプルレート 44.1/48 kHz では 8 チャンネル、88.2/96 kHz では 4 チャンネルのデジタルオーディオ信号を伝送する入出力用の TOSLINK コネクタ。また、**Focusrite Control** で設定することで、この入力 は S/PDIF ステレオ オプティカル 信号にも対応します。ただし、オプティカル 入力は、サンプルレートが 176.4/192 kHz の場合、無効となります。
- 5. WORD CLOCK OUTPUT** – Clarett+ 8Pre からワードクロック信号を出力するための BNC コネクタ。他のデジタルオーディオ機器を同期させる際に使用します。
- 6. USB** – USB コネクタ。USB ケーブルで Clarett+ 8Pre をコンピュータに接続します。
- 7. MIDI IN および MIDI OUT** – 外部 MIDI 機器を接続するための標準 5 ピン DIN ソケット。コンピュータと MIDI データをやり取りし、追加の MIDI デバイスに分配することができます。
- 8. SPDIF IN および OUT** – Clarett+ 8Pre と外部機器間において、2 チャンネルのデジタルオーディオ信号を S/PDIF 形式で伝送するためのフォノ (RCA) ソケット。他の全ての入出力と同様、S/PDIF 信号のルーティングは **Focusrite Control** でカスタマイズが可能です。
- 9. AC 電源** – IEC 規格 コネクタ。Clarett+ 8Pre は、ユニバーサル電源を採用しており、100V から 240V (50Hz または 60Hz) のあらゆる AC 主電源電圧に対応しています。

Clarett+ 8Preを接続する

Clarett 8Preを、付属のケーブルを使用してAC電源に接続します。IEC コネクタをリアパネルの IEC コンセントに差し込み、フロントパネルの電源スイッチをオンにして本体の電源を入れます。

Clarett+ 8Preは、USB-C™ポートをリアパネルに備えます。ソフトウェアのインストールが完了したら、USBケーブルを使用してClarett+ 8Preをコンピュータに接続します。

コンピュータのオーディオセットアップ

Clarett+ 8Preをコンピュータに初めて接続する際は、Clarett+ 8Preをオーディオ入力/出力機器として選択する必要があります。

- **MacOS:**システム環境設定 > サウンドの入力および出力タブの両方で、Focusriteデバイスを選択します。
- **Windows:**コントロールパネル > サウンドで Focusrite デバイスを右クリックし、「既定のデバイスとして設定」を録音および再生タブの両方で選択します。

Clarett+ 8Preをオーディオデバイスとして選択する方法は、focusrite.com/get-started/ClarettPlus-8Preをご参照ください。

初回接続時、Clarett+ 8Preはデフォルトのオーディオデバイスとしてオペレーティングシステムに認識されます。

DAWでのオーディオセットアップ

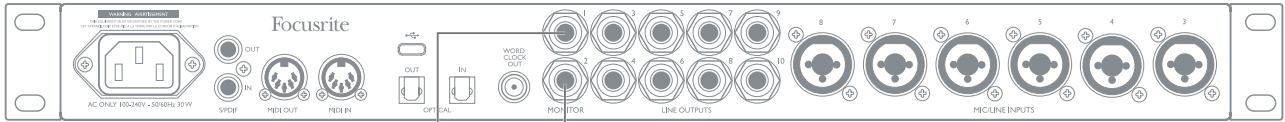
ドライバーをインストールして本体を接続すると、Clarett+ 8PreがDAWで使用可能になります。

注意 - お使いのDAWによっては、Clarett+ 8PreがデフォルトのI/Oデバイスとして自動的に選択されないことがあります。この場合は、DAWのオーディオ環境設定*画面でドライバを手動で選択する必要があります。Macの場合はClarett+ 8Pre USB、Windowsの場合はFocusrite USB ASIOを選択してください。オーディオデバイスの設定方法に関する詳細は、お使いのDAWのマニュアル(またはヘルプファイル)をご参照ください。

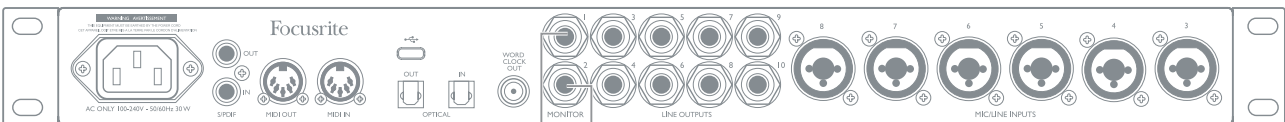
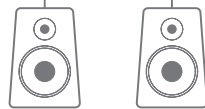
*一般的な呼称 - DAWによって異なる場合があります

Clarett+ 8Preをスピーカーに接続する

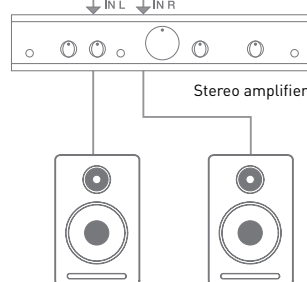
リアパネルの1/4インチジャック**MONITOR**出力 (LINE OUTPUTS 1および2) は、通常モニタースピーカーの出力として使用されます。アクティブモニターの場合は、アンプが内蔵されているため直接接続することが可能です。パッシブモニターの場合は、別途ステレオアンプが必要となり、この場合、本体の出力はアンプの入力部に接続してください。



アクティブスピーカーの接続



パッシブスピーカーの接続

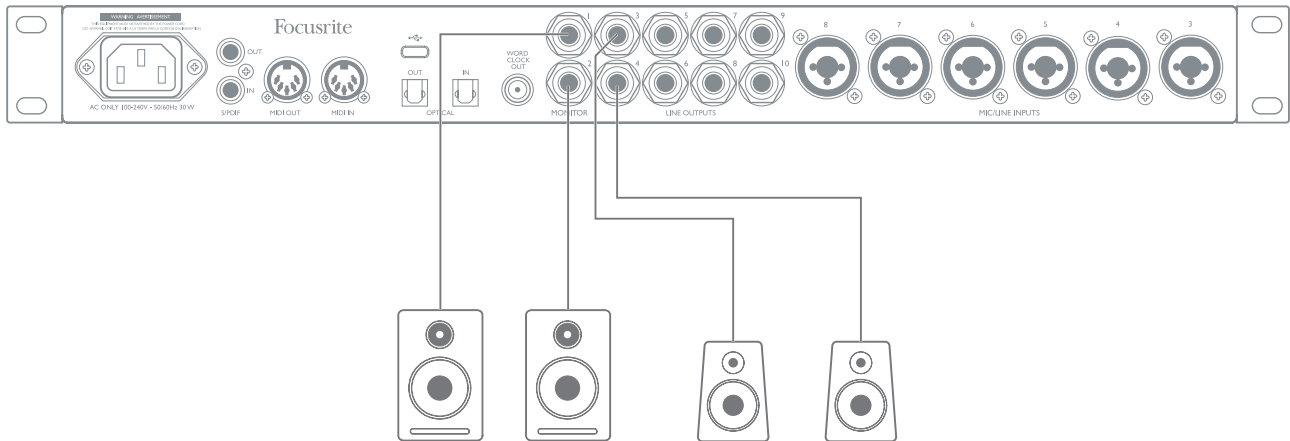


全てのライン出力コネクタは、3極 (TRS) 1/4インチジャックソケットであり、バランス接続です。一般的な家庭用 (Hi-Fi) アンプと小型パワーモニターには、フォノ (RCA) ソケットまたはコンピュータに直接接続するための3.5mm 3極ジャックプラグ経由のいずれかにアンバランス入力があります。いずれの場合も、一端にジャックプラグの付いた適切な接続ケーブルを使用します。

プロフェッショナル用パワーアンプは、一般的にバランス入力を備えています。

複数のスピーカーに接続する

ミキシングを行う際に、複数のスピーカー（ミッドフィールド、ニアフィールドなど）を出力に接続することができます。また、**Focusrite Control**でミックスを別の出力にルーティングすることで、ミックスを異なるスピーカーで比較することもできます。



重要:

MONITOR 1および2の出力は、スピーカ保護回路を備えています。スピーカー（およびアンプ）が接続されアクティブな状態でClarett+ 8Preの電源が投入された場合でも、保護回路が機能し接続機器の損傷を防ぎます。

LINE OUTPUTS 3～10には、保護回路が搭載されていません。これらの出力にスピーカーを追加で接続する場合は、最初にClarett+ 8Preの電源を投入してから、スピーカー（またはアンプ）の電源を投入してください。

いかなる環境においても、オーディオを供給する機器の電源を入れた後で、スピーカーシステムの電源を入れる手順を守ると良いでしょう。

サラウンドサウンドシステムの使用

Clarett+ 8Preは、10系統のライン出力を備えており、マルチチャンネルサウンドフォーマット（例：LCRS、5.1サラウンド、7.1サラウンドなど）での使用に最適です。

各チャンネルを適切な出力にルーティングするには、**Focusrite Control**を用いて、DAWの出力を各LINE OUTPUTSに割り当てる必要があります（例：DAW出力1 > ライン出力1、DAW出力2 > ライン出力2、など）。

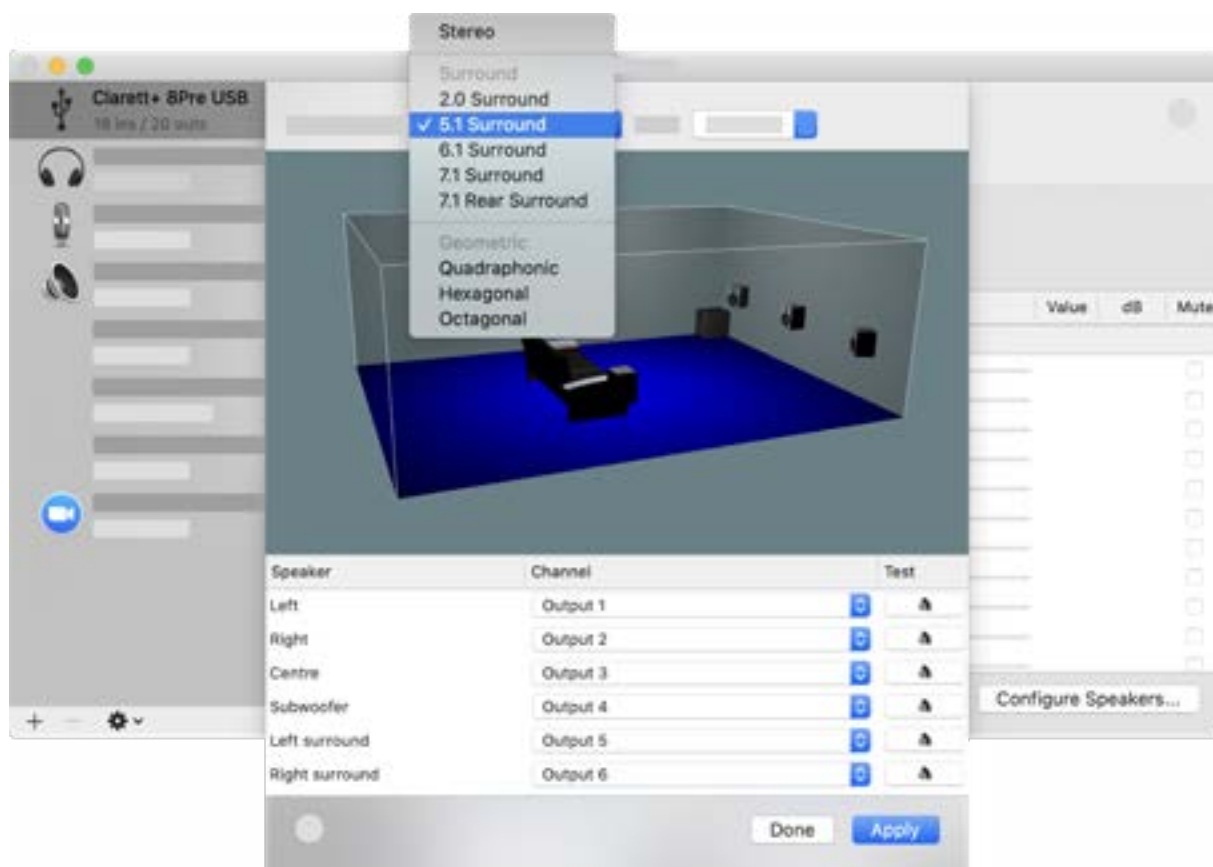
Windowsの場合：

Windowsでは、ASIO対応のソフトウェアでのみサラウンドサウンドを使用できます。ほとんどの場合DAWになりますが、通常、サラウンドのミキシングが可能なDAWは、オーディオ出力設定またはI/O設定などの画面で、スピーカーのマッピングを行います。

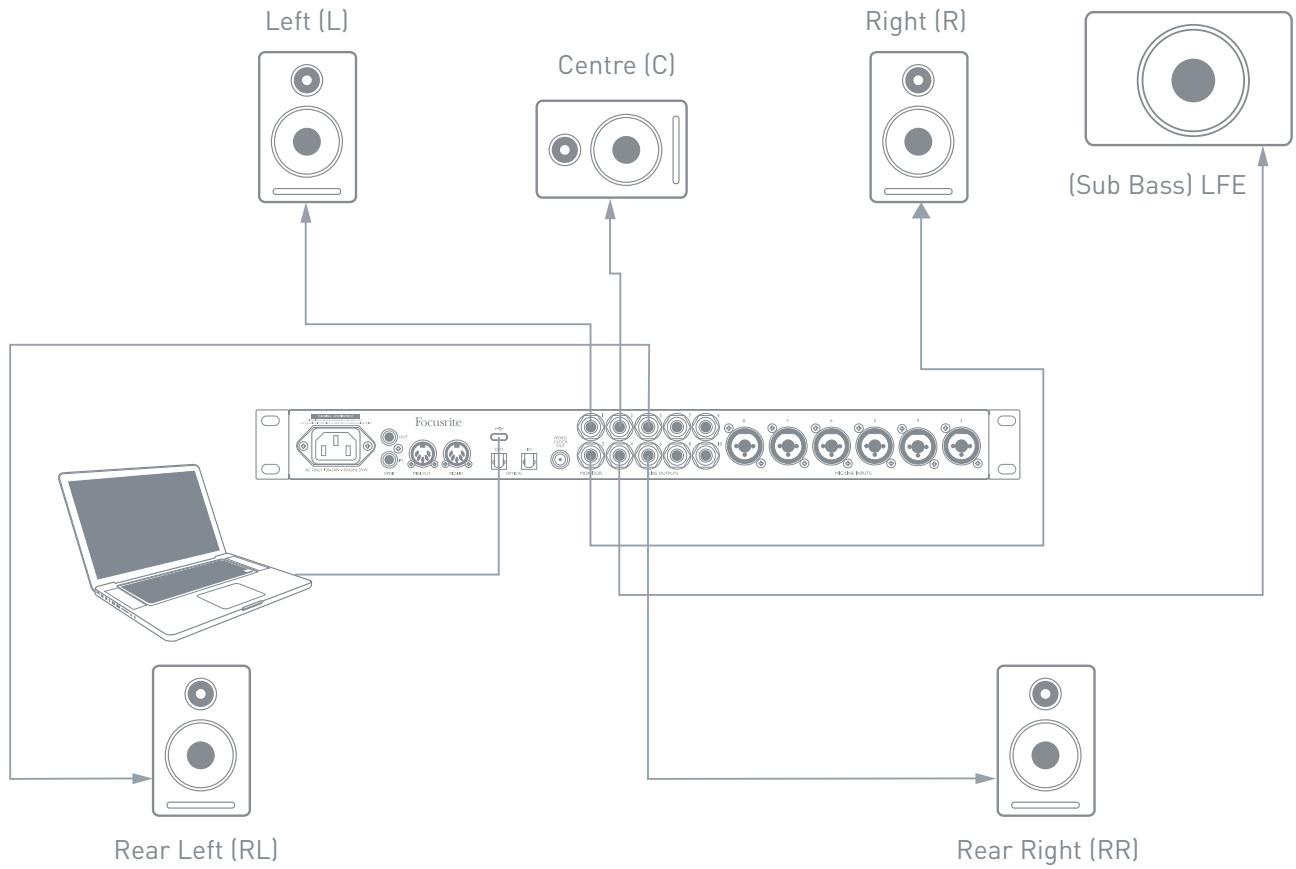
使用するスピーカー環境でサラウンドのミキシングを行う際のDAWの出力設定については、DAWのユーザーマニュアル（またはヘルプファイル）をご参照ください。

Macの場合：

Macでは、マルチチャンネルオーディオ対応のアプリケーション（DAWやmacOS標準アプリケーションなど）でサラウンドサウンドを設定します。使用する環境に応じて、アプリケーション > ユーティリティ > オーディオMIDI設定 > Clarett+ 8Pre > スピーカーの設定 > 設定 > の手順でマッピングを行います。



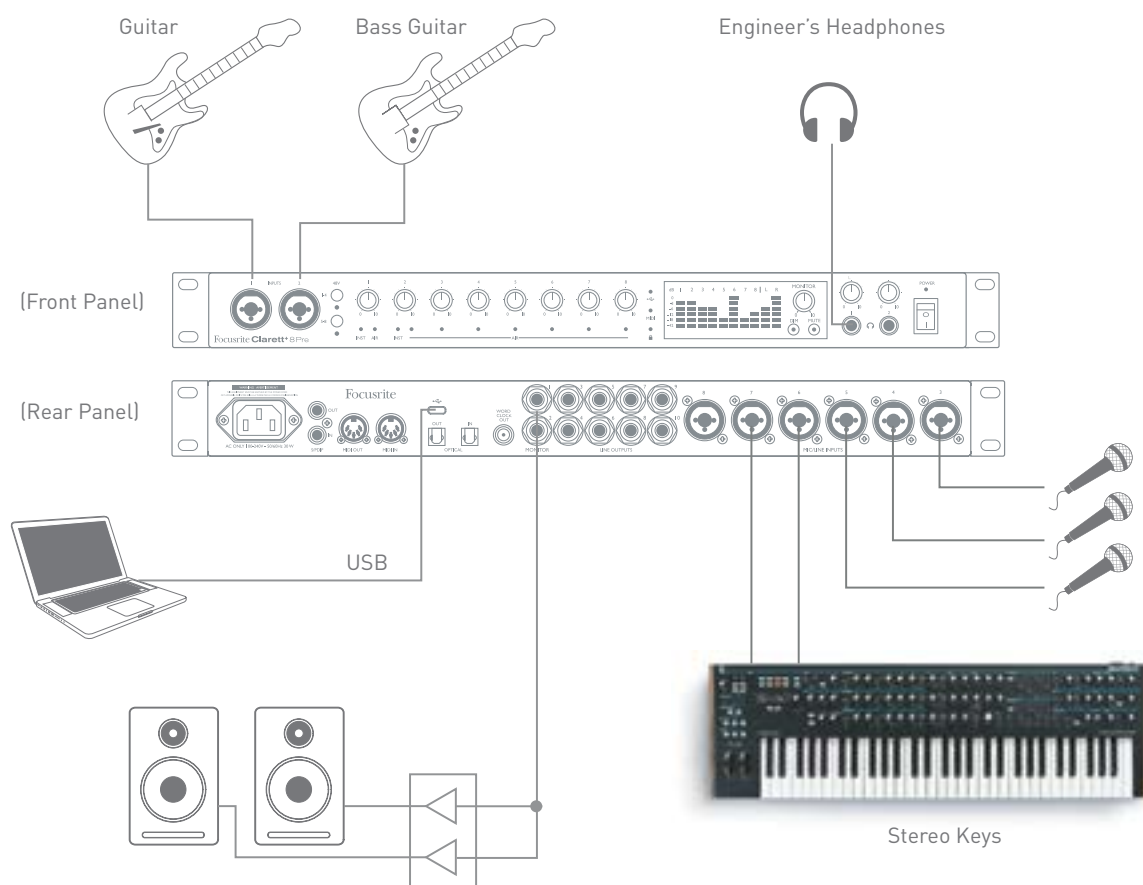
以図は、5.1サラウンドモニタリング環境で6台のスピーカーを接続した場合の例です。



使用例

Clarett+ 8Preは、多くのレコーディングおよびモニタリングアプリケーションにとって優れた選択肢となります。ここでは、代表的な接続例をいくつかご紹介します。

1. バンドのレコーディング



このセットアップでは、コンピュータ上の DAW ソフトウェアを使用して行うマルチトラックレコーディングの一般的な構成を示しています。

ソースの選択 - 上図では、マイク、ギター、キーボードがClarett+ 8Preの入力部に接続されています。Input 1と2のみがインストゥルメント入力として設定でき、この例では、ギターをInput 1と2に接続しています。**Focusrite Control**でInput 1と2をINSTモードに設定し、INST LEDが点灯していることを確認してください。

DAWソフトウェアを実行しているコンピュータには、USBケーブルを使用して本体が接続されています。これにより、DAWとClarett+ 8Pre間で全ての入出力信号が伝送されます。DAW上でオーディオセットアップが適切に設定されると、DAWのレコーディングトラックに各入力ソースが自動的にルーティングされます。

レイテンシーについて

デジタルオーディオシステムに関連して「レイテンシー」という用語を聞くことがよくあるかと思います。上記のようなDAWレコーディングアプリケーションの場合、レイテンシーとは、入力信号がお使いのコンピュータおよびオーディオソフトウェアを通過し、オーディオインターフェース経由で再度戻ってくるまでにかかる時間を指します。

ほとんどのレコーディングでは問題になりませんが、入力信号をモニタリングしながらレコーディングを行いたい場合は、レイテンシーが問題となる場合があります。多くのDAWトラックやソフトウェアインストゥルメント、エフェクトプラグインを使用した大規模なプロジェクトでオーバーダブを行う場合は、DAWのバッファサイズを増やす必要があります。

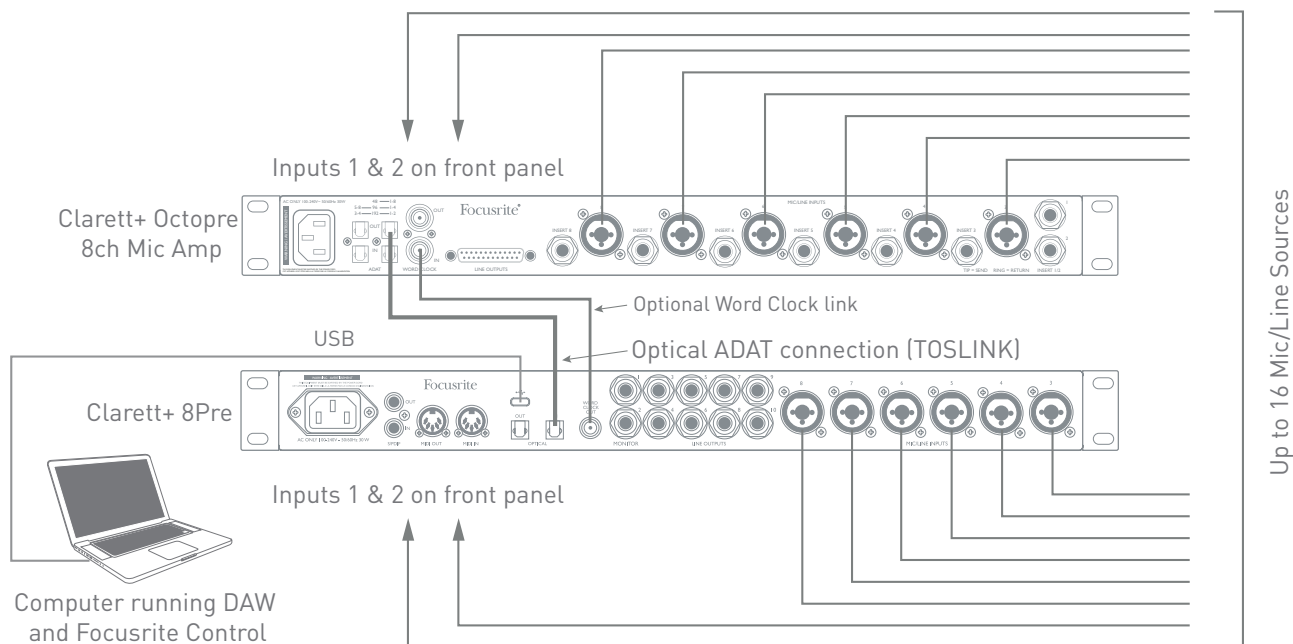
バッファサイズが低すぎると、オーディオのグリッチ（クリックやポップ）が生じたり、またはDAWで異常なCPU負荷がかかってしまうことが多々あります（多くのDAWではCPUの使用状況が確認できます）。Macでこれが生じた場合は、DAW内の設定画面でバッファサイズを高く設定でき、また、Windowsの場合は、DAWの環境設定*からアクセスできるASIOコントロールパネルでバッファサイズを高く設定して、この問題を回避できます。

Clarett+ 8Preを**Focusrite Control**と併用すると、「低レイテンシーモニタリング」が可能となり、この問題を解決できます。入力信号をClarett+ 8Preのヘッドフォン出力とライン出力に直接ルーティングできるため、コンピューターの再生中に自身の演奏を超低レイテンシー、つまり「リアルタイム」でモニターすることができます。コンピュータへの入力信号は、この設定による影響を受けることはありません。ただし、ソフトウェアプラグインを適用したエフェクト音をヘッドフォンでリアルタイムに聞くことはできませんのでご注意ください（エフェクト音の録音は可能）。

*一般的な呼称 - DAW によって異なる場合があります

2. オプティカル接続の使用

Clarett+ 8Preは、8つのアナログ入力に加え、ADAT入力ポート (**OPTICAL IN**) を備えています。このポートでは、44.1/48 kHzのサンプルレートで8系統、88.2/96 kHzで4系統のオーディオ入力を追加できます。Clarett+ OctoPreなどのADAT出力を搭載する8チャンネルマイクプリアンプを使用することで、Clarett+ 8Preの入力機能を簡単に拡張できます。



上図では、1本のTOSLINKオプティカルケーブルでClarett+ OctoPreの**OPTICAL OUT**ポートがClarett+ 8Preの**OPTICAL IN**ポートに接続されています。安定したワードクロックの同期を確立するには、Clarett+ 8Preの**WORD CLOCK**出力とClarett+ OctoPreの**WORD CLOCK IN**を接続し、これが同期ソースとなるようにClarett+ OctoPreを設定します。また、Clarett+ 8Preの**OPTICAL IN**ポートに入力されるADAT信号を同期信号にすることも可能です。これを設定するには、**Focusrite Control**内の**Device Settings**にある**Clock Source**で**ADAT**を選択します。

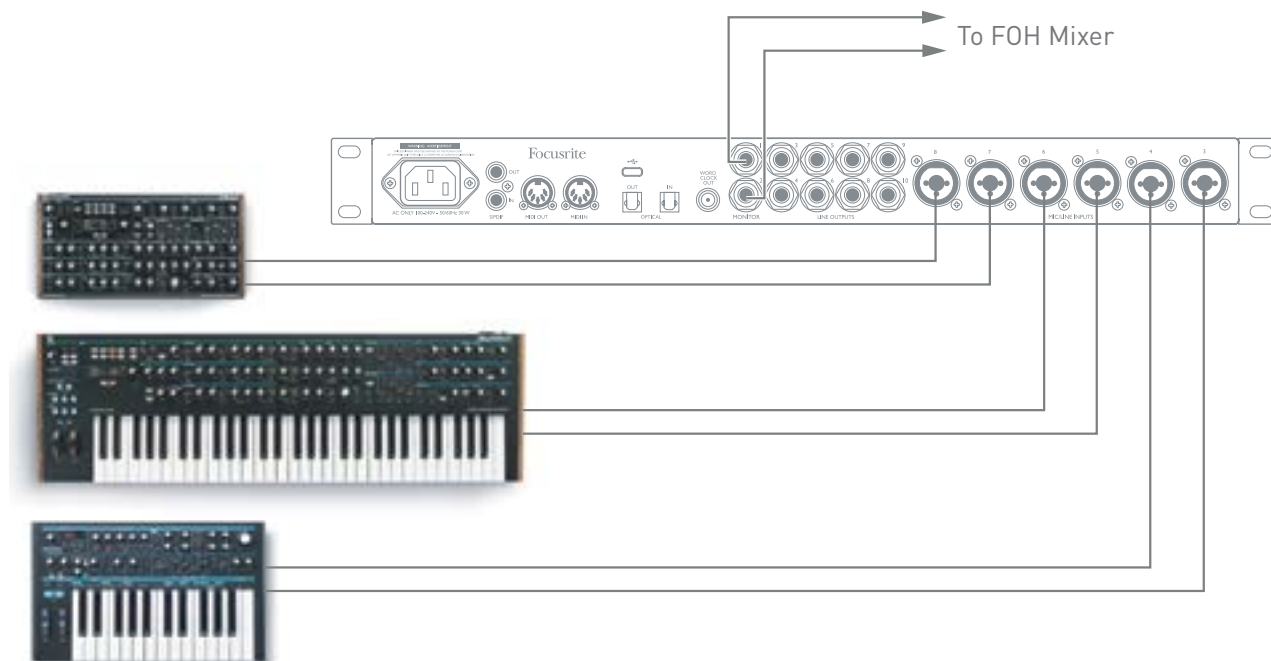
注意:2台のデジタル機器を相互接続する際は、いかなる場合にも必ずこれら両方の機器を同一のサンプルレートに設定してください。

ADAT入力信号は、他の信号と同様、**Focusrite Control**でルーティングが可能です。必要に応じて、ミュージシャンに送信するヘッドフォンミックスにADAT入力信号を加えることもできます。

ADAT 入力に適した D/A コンバーターが使用できる場合、**OPTICAL OUT** ポートは、逆の方法で使用できます。例えば、DAW からの追加の出力を外部のミキシングコンソールに使用してアナログに変換することで多数の DAW トラックをミックスダウンできるようになります。

3. Clarett+ 8Preをスタンドアロンのミキサーとして使用する

Clarett+ 8Preには、**Focusrite Control**で設定したミックスを本体に保存できる機能があります。例えば、コンピューターで事前に構成したミキサー設定を本体に保存できます。Clarett+ 8Preをラックマウントミキサーとして使用でき、ステージ上で複数のキーボードのミックスをコントロールすることが可能です。



ここで示されている例では、3台のステレオキーボードがClarett+ 8Preのリアパネルの入力部に接続され、Output 1および2がメインのPAシステムに接続されています。フロントパネルにあるノブで各キーボードのボリュームを調整したり、スピーカーから出力される全体の信号レベルを調整できます。

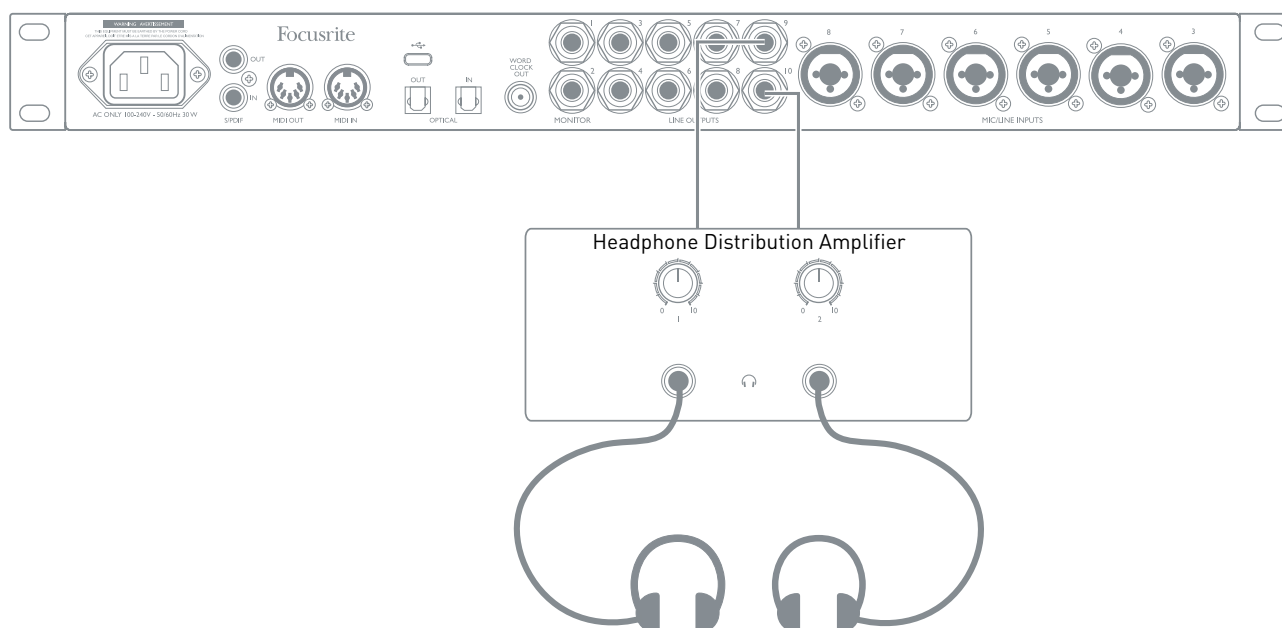
4. レコーディング中にフォールドバックを行う

多くの場合、他のミュージシャンの演奏を聴きながら自身の演奏を行ったり、また、オーバーダビングする場合には、既に録音されているDAWトラックを演奏と同時にモニターできる環境が必要となってきます。

Focusrite Controlでは、モノラル/ステレオなど様々なミックスを構成し、Clarett+ 8Preのいずれかの出力にルーティングできます。これにより、録音中に各ミュージシャンがそれぞれミキシングを行うことができます。各モニターミックスは、Clarett+ 8Preに入力されている楽器信号だけでなく、クリックや録音済みのDAWトラックなどの再生音を組み合わせることも可能です。ミックスの構成や、Clarett+ 8Pre出力部へのルーティング方法については、**Focusrite Control**ユーザーガイド (focusrite.com/downloadsからダウンロード可能)をご参照ください。

購入時、フロントパネルの2つのヘッドフォン出力からはデフォルト設定のミックスが出力されます。ヘッドフォン 1からはLINE OUTPUT 7および8から出力されるステレオミックスと同じ信号が出力され、ヘッドフォン 2からはヘッドフォンモニタリング専用構成されたミックスが出力されます。これらのミックスは、**Focusrite Control**で自由に変更できます。ヘッドフォン 1から供給されるミックスはOutput 7/8、ヘッドフォン 2から供給されるミックスはOutput 9/10 (対応するリアパネルのソケットはなし)となります。

いずれか、または両方のミックスをミュージシャン用のモニターミックスとして使用でき、ヘッドフォン端子からそれぞれ出力されます。これは最も簡単な方法であり、ステレオミックスを行える利点があります。追加でヘッドフォンを使用したい場合は、別途ヘッドフォンアンプが必要です。



入力信号のモニターミックスを使用する場合は、必ず録音中のDAWチャンネルで入力信号がミュートされていることを確認してください。ミュートになっていない場合、DAW経由の遅延した信号とダイレクトモニター音の両方が出力され、1つの信号がエコーとなり、ミュージシャンは自身の音声を2度聞くことになってしまいます。

FOCUSRITE CONTROL - 概要

Focusrite Controlは、Clarett+ 8Preで使用するソフトウェアで、focusrite.com/downloadsからダウンロードすることができます。また**Focusrite Control**をWiFi経由でコントロールできるiOSアプリもApple Appストアから入手できます。

Focusrite Controlでは、自由にモニターミックスを作成したり、すべてのオーディオ信号を実際の出力にルーティングすることができます。またサンプルレートやクロックソースの設定も**Focusrite Control**内で行います。

Focusrite Controlには専用のユーザーガイドが用意されており、すべての機能に関する操作手順が詳しく解説されています。
focusrite.com/downloadsよりダウンロードが可能です。

CLARETT+ 8PRE技術仕様

性能仕様

構成	
入力	18:アナログ(8)、S/PDIF(2)、ADAT(8)
出力	8:アナログ(4)、S/PDIF(2)、HP(2)
ミキサー	完全に割り当て可能な26イン/10アウトミキサー
カスタムミックス	10(モノラル)
最大カスタムミックス入力	18(モノラル)
デジタル性能	
対応サンプルレート	44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz
マイク入力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.03 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB
ダイナミックレンジ	118 dB(最小ゲイン)
THD+N	-110 dB @ -1 dBFSおよび20 dBゲイン
ノイズ EIN	-129 dBu
最大入力レベル	18 dBu
ゲインレンジ	57 dB
ライン入力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.05 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB
ダイナミックレンジ	118 dB(最小ゲイン)
THD+N	-100 dB @ -1 dBFSおよび最小ゲイン
最大入力レベル	26 dBu
ゲインレンジ	57 dB
楽器入力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.04 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB
ダイナミックレンジ	116 dB
THD+N	-96.5 dB @ -1 dBFSおよび最小ゲイン
最大入力レベル	15 dBu
ゲインレンジ	57 dB

ラインおよびモニター出力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.02 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.02 dB
ダイナミックレンジ出力(1~2)	124 dB
THD+N出力(1~2)	-106 dB
最大出力レベル(0dBFS) バランス ライン/TRS 出力	18 dBu
ヘッドフォン出力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.06 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.07 dB
ダイナミックレンジ	118 dB
THD+N	-104 dB
最大出力レベル	16 dBu

物理的特性と電気的特性

アナログ入力1 & 2	
コネクタ	コンボ XLR ソケット:フロントパネルの Mic/Line/Inst
マイク/ライン切替	自動
ライン/楽器切替	Focusrite Control 経由
ファンタム電源	入力1~4、5~8用の +48V スイッチ
アナログ入力3~8	
コネクタ	コンボXLR:リアパネルのMic/Line
マイク/ライン切替	自動
ファンタム電源	入力1~4、5~8用の +48V スイッチ
アナログ出力	
メイン出力	10 x リアパネルのバランス1/4インチ TRS ジャック
ステレオヘッドフォン出力	2 x フロントパネルの1/4インチ TRS ジャック
メインモニター出力レベルコントロール	フロントパネル上
ヘッドフォンレベルコントロール	
その他の入出力	
ADAT 入力	2 x TOSLINK オプティカルコネクタ: 44.1/48kHz の場合 8チャンネル 88.2/96kHz の場合 4チャンネル
S/PDIF 入出力	2 x フォノ (RCA): ソフトウェア上で ADAT ポートに再割り当て可能
データコネクタ (コンピュータ用)	1 x USB-C™コネクタ
MIDI 入出力	2 x 5ピン DIN ソケット

重量および寸法	
幅 x 高さ x 奥行	482.5mm x 43.9mm x 291mm 19インチ x 1.73インチ x 11.46インチ
重量	4.08 kg

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するお問い合わせは、Focusriteヘルプセンターsupport.focusrite.comにアクセスしてください。

著作権表示と法定通知

Focusrite、Clarett、OctoPreは、米国およびその他の国におけるFocusrite Audio Engineering Ltd.の登録商標です。

ADATは、米国および他の国におけるinMusic Brandsの登録商標です。

iOS、iPhone、iPad、App Storeは、米国およびその他の国や地域で登録されているApple Inc.の商標です。

USB Type-C®およびUSB-C®は、USB Implementers Forumの登録商標です。

Thunderboltは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標です。

2021 © Focusrite Audio Engineering Limited.無断転載禁止。